

巻頭言



防災研究会創立10周年を迎えて

北海道技術士センター 防災研究会会長
技術士（建設部門、総合技術監理部門）

高宮 則夫

平成17年で防災研究会は創立10周年を迎えました。この10年間、北海道支部並びに技術士センターの皆さまからのご支援とご協力に感謝申し上げます。

防災研究会は、現在「都市型災害」をテーマに研究会活動を行うとともに、防災知識向上から専門家や学識者による講演会や防災セミナー等を開催しています。また、本年4月には、これまでの研究成果をまとめた「第5期研究報告書」を発刊しました。現在、会員約90名で活発な活動を継続しております。

昨年、札幌で開催された第31回技術士全国大会（北海道）では、「第4分科会：都市防災」を開催し、基調講演には京都大学河田恵昭教授による「都市型震災対策」について、パネルディスカッションでは、「都市防災」をテーマに熱心な議論が交わされました。大変盛況の中で行われ、有意義な分科会であったとの評価をいただきました。

さて、昨年は、6月の台風6号を皮切りに、観測史上最多の年間10個の台風上陸による豪雨の発生での水害や、阪神淡路大震災以来となる震度7を記録した「新潟中越地震」等により、全国各地で大きな被害が発生しました。今なお、多くの方が避難生活を余儀なくされています。

さらに12月26日には、スマトラ島沖でのM9級の超巨大地震及びこれに伴う津波が発生し、インド洋沿岸国に甚大な被害をもたらしました。今年に入って、福岡地震の発生などと自然災害の発生が市民生活を脅かしております。

我々は常に災害に対する備えを行ってきたはずですが、自然の力は我々の予想を超えて、様々な災害を発生させています。

技術の進展とともに防災対策が充実している一方、社会は高度化・複雑化によって一層災害に脆弱になっていることを再認識する必要があります。社会を構成する要素（人間、地域、空間、行政など）とそれを支えるシステム等が、災害に対して脆弱になっております。昨年の水害における犠牲者のほとんどが高齢者であったことは、高齢社会の災害に対する脆弱さを端的に示しています。

一方、希望のもてる社会変化が見られます。それは、昨年は災害が立て続けに広域的に発生したにも関わらず、高校生・学生・主婦・社会人などのボランティアが各地に集結し、地域の復旧・復興に多大な役割を果たしたことです。その活躍には目覚ましいものがあり、まさに、防災ボランティアが私たちの国に根付いてきたと思います。

研究会創立10周年を迎えるに際し、10周年記念事業として、全国支部との防災ネットワーク構築を目的に、本年の9月16日に札幌で仮称全国防災連絡会議札幌大会を開催いたします。

この連絡会議を通して、全国の災害情報の共有化や防災・減災技術等の情報交換を行い、安心安全な国土づくりに社会貢献を果たしたいと考えております。

皆様の参加によって是非成功させたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしく願いいたします。